

中田かわら版 7月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

混声合唱 17 年「しらゆりコーラス」

中田南に「くずの葉コーラス」あれば、北のしらゆり（地区）に「しらゆりコーラス」（木下和久代表、45 人）あり。「くずの葉」の歴史 20 年には及ばないが、しらゆり集会所を歌の拠点にして 17 年目を迎えた混声合唱団だ。

4 月 14 日、横浜みなとみらいホールで行われた第 6 回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」に出演してきたばかり。2 日間行われる初日の、しかもトップバッターでの登場だった。今回は 29 人が参加、うち男性は 5 人。「序曲・富士山」「いつでも夢を」「三百六十五歩のマーチ」「山の歌・春よ来い」の 4 曲を声高らかに歌ってきた。この日のために指揮を執ってきた山本紀子先生が 1 月末に退任、代わって成勢裕子先生が 2 月から指揮をとることになり、ピアノ伴奏の赤石文子先生とは初のコンビによる大舞台での場であった。しかし、そうしたハンディを難なく乗り越えられたのも長い歴史・伝統の故かもしれない。翌 15 日の神奈川新聞に写真入り 5 段抜きで大きく紹介された。大石綾子さん、小林しげさんの 2 人のインタビュー記事までのった。成勢先生の開口一番「トップバッターで緊張もするけど、得することもあるわネ」。みんないい思い出になった。

同コーラスの創立は平成 10 年（1998）9 月 22 日。当初のグループは町内会の名前からとって「朝日・童謡国民愛唱歌コーラスの会」（代表・小林保治）といった。古風な名称だが、「しらゆりコーラス」前身の名称である。会の目的にこう書かれている。

「朝日町の皆様と楽しく歌を歌い仲良く交わり、健康増進・老人会の活性化で会員の増加を図る。コーラスの向上のため地域活動に参加し、社会施設などにも積極的にボランティアを行う」。しらゆりコーラスの年間行事に、今も「踊場ケアプラザ」や「中田診療所デイサービス」が活動計画に含まれているの



みなとみらい大ホールで(2014 年 4 月)

も、そうした伝統があったのだ。歌を通じて社会のため、人のために活動するコーラスグループは素晴らしい。年間では 10 月「白桜しらゆりまつり」（文化祭）、11 月「泉区民文化祭・合唱部会」4 月「みなとみらい・国際シニア合唱祭」を 3 大行事の柱として練習（月 2 回）を積んでいる。この会でも高齢化が進んでいるが、みんな元気で若々しい。入会すると辞める人が殆どいない。魅力いっぱいなコーラスグループなのだろう。会の運営がスムーズにしているのも、月謝の集金、ピアノの管理、報告書、班ごとに行われる教室の準備など各自が自発的に役割を分担し実行していること。伝統と言えば、指揮者の山本紀子先生のユーモアのある教え方も楽しかった。「山本語録」になるくらい例え話がうまい。新しく指揮者になった成勢裕子先生も、山本先生に劣らず「成勢語録」を継承する気配がする。歌う時のイメージを大切に、細かいことにこだわらない。「間違えてもいい、声を大きく」。厳しい中にも優しさ、明るさがあり、楽譜を示しながら丁寧に教える。ピアノ伴奏の赤石先生は「しらゆりコーラス」と共に 14 年。誰よりもこのコーラスを愛し、全員から敬愛され親しまれている存在だ。コーラス部の未来に向け成勢先生との名コンビの歴史が今始まったばかりだ。（編集委員・宮田貞夫）

～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



成勢先生指揮による授業風景（5 月）

8月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【サマーフェスティバル】

8月23日（土）中田小学校グラウンド

子どもの部 14:30～18:00

お楽しみゲーム大会、ブラスバンド演奏、ビンゴ、模擬店など

夜の部 16:30～21:10

キャンプファイヤー、盆踊り、キッズダンスなど

【夏祭り情報】

7月19日（土） 夏刈場、根下

7月26日（土） 池谷、下村、中下、ひがしが丘、東原、広町

7月27日（日） ひがしが丘、東原

8月2日（土） 中田踊場、中西、中村、葛野7町会、富士見丘、宮の台、向根下

8月3日（日） 中田踊場

※詳細は各自治会町内会にご確認ください。



エコキャップ運動

エコキャップってなに？ 巷では結構話題になっている社会現象である。先日、連合自治会を通じて各家庭に同女性部（加藤道子部長）からエコキャップ回収実績が報告されていた。（詳しくは右の表を参照）

ところで、集められたエコキャップはその後、どんなルートをたどるのか、意外と知ら

れていない。キャップを扱っているNPO法人Reライフスタイル（笹田実業株式会社）の理事、笹田一成さんに聞いてみた。各家庭や個人などから出されたペットボトルのキャップは、まず樹脂メーカー（対価キロ21円）に送り、金銭に替えられNPO法人Reライフスタイル（対価受領）へ。ここから「世界の子どものワクチンを日本委員会」（JCV）に寄付され、JCVから国連児童基金（ユニセフ）本部へ。ユニセフから支援先の国、政府に現物のワクチンが届けられる。

ポリオワクチンで世界の貧しい国の子どもの命が救える。という運動は平成20年7月から始められた。キャップ400個（約1kg）で10円。ポリオワクチンは1人分20円なのでキャップ800個で一人の子どもの命を救うことができるという。例えば、乳児三種混合（破傷風、ジフテリア、百日咳）は一人分約9円（キャップ180個）、ポリオ（小児麻痺）1人分約20円（400個）、はしか（約95円、1850個）。



Reライフキャラクター
ゆうちゃん

ちなみに平成20年3月現在で同キャップ収集は15,303,040個、ワクチン募金総額571,079円。これは子ども約28,554人分に当たる。（宮田貞夫）

	量(kg)	金額(円)	ポリオワクチン(人)
20年度	2035.5	2040	102
21年度	8339.5	8340	417
22年度	6806	6806	340
23年度	1380.8	13808	690
24年度	8368	8368	418
25年度	1047.2	10472	523

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！